

1 研究主題

「生きる力」を育む生徒の育成

－自他のよさを認め、高め合う集団と自主的に学ぶ姿勢の確立－

2 主題設定の理由

本校は平成21年度から「生きる力」を育む生徒の育成をテーマに研究を進めている。昨年度までは「基本的生活習慣」と「学習習慣」の確立というサブテーマで研究を進め、ある程度の基本的生活習慣と学習習慣を身に付けさせることができた。さらに集団生活と学力を向上させるためには、学級のまとまりや意欲的に学ぶ姿勢が必要不可欠であると考えた。

また、「基礎・基本」定着度調査や全国学力・学習状況調査の問題ならびに結果を比較・分析して学力の向上に結びつける必要がある。

なお、この主題設定は次の視点を基にして設定した。

(1) 社会の要請から

青少年の問題行動等が連日のように報じられているが、その原因として規範意識の低下や希薄な人間関係などが考えられる。また、国際的な学力調査の結果から日本の学力低下も顕著になっており、本校でもこのような傾向が散見される。

「生きる力」を育むためには、正しい理解力・判断力や基礎学力を身につけさせる必要がある。

(2) 保護者の願いから

昨年度末の保護者に対する道徳性意識調査によると、本校の生徒にもっと育て欲しい徳性として思いやりの心や自主・責任などが多かった。また、家庭での学習時間が絶対的に不足している生徒、時間の取り方や学習の仕方がわからない生徒を多く見かける。保護者からも自宅学習の必要性はわかっているが、どのように取り組ませれば良いのかがわからないという声をよく聞く。そこで、本校では、課題を与えたり、「学習の手引き」を作成したりするなど家庭学習の充実に取り組んできた。

(3) 教師の願いから

本校の生徒の基本的生活習慣はある程度身につけている。しかし学級集団への所属意識や相手への思いやりの心などが十分に育っているとはいえない。また、本校ではティームティーチング、少人数学級、選択教科における習熟度別のコース設定などを通じて、生徒の学力を向上させる授業を展開し、ある程度の学力はついてきたが、生徒が自主的に学ぶ姿勢を育てる必要があると考える。

3 研究の仮説

自他のよさを認め、高め合う学級の集団を確立し、自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせることで学力の向上が見込まれるだけでなく、正しい理解・判断力が備わり、確かな生きる力が身につくのではないかと考える。

4 仮説設定の理由

生徒が中学校生活で大半を過ごす場所が学級である。お互いの存在やよさを認め合い、一人一人が自分の力を発揮し、切磋琢磨していく雰囲気ができるようになると、授業に臨む姿勢もよくなると考えられる。そして受け身の姿勢ではなく、自ら学ぼうという意欲を喚起することで基礎的・基本的事項の定着が図られ、学力が向上するという好循環ができる。学びに喜びを見出し、自ら学ぼうとする学習習慣が確立できれば、生徒に正しい理解力・判断力が身につくとともに、道徳性が高まり、より良く生きようとする「生きる力」が身につくのではないかと考え、この仮説を設定した。

## 5 研究の視点

- (1) 自己肯定感や自己有用感を高めさせるための手だて
- (2) 思いやりの心を持ち、お互いに切磋琢磨する集団の育成
- (3) 自ら学ぶ意欲と学びに対する姿勢の向上を図るための手だて
- (4) 生徒が「わかる」「できる」ための“授業力”の向上

## 6 研修の基本方針

- (1) 学校教育目標に沿い、四つの「目指す生徒像」に示すような生徒の資質・能力向上を期し、その点に重点をおいて研修を推進する。
- (2) どんなことを解決したいのか全職員の課題を明確にし、その解決に向けた研究をする。
- (3) 調和の取れた研修計画を立て、それぞれの専門性と個々の力量を伸ばしながら、学校教育目標達成の共通認識のもとに意見や情報交換をする。
- (4) 研修の過程としては、事例と理論と、特に授業実践を重視し、＜調査→計画→実践→検証→修正→実践→評価＞のサイクルを繰り返して行う中で成果を積み上げていくようにする。
- (5) 各種研修会や研究会に出席し、全職員の共通理解や力量の向上に活用できる内容や資料については報告・提示し、自校化を図る。
- (6) より深い理論や知識や経験等を研修するために、外部から専門の講師を招聘する。

## 7 全体研修の日程

4月 11日 (月)	研修年間計画確認 (生徒指導・学業指導)
5月 23日 (月)	生徒指導 (事例研修)
6月 6日 (月)	学習指導 (「標準学力検査」分析)
6月 13日 (月)	市教研 小中連携研修会(会場・・・本校) ＜授業参観・3つの分科会＞
8月 1日 (月)	特別支援教育
8月 19日 (金)	I C T活用
8月 31日 (水)	生徒指導 (事例研修、2学期に向けての共通理解)
10月 11日 (火)	人権同和教育
1月 30日 (月)	研究授業・授業研究 (各教科部で研究テーマについての研修)
2月 6日 (月)	次年度の年間計画提案

## 8 運営の方法

- (1) 全体研修は年9回とする。
- (2) 全体研修の内容について、職員の要望や教育環境の状況に考慮し、研修係で計画する。ただし、具体的な問題提起や内容提起については、関連する領域、教科等、研修係と連携して行う。
- (3) 研究の実証として研究授業をするときは、研修係と担当の係で必要に応じて検討する。
- (4) 研修係は、主題提起する担当や係と少なくとも一か月前には運営や内容について具体的な計画を話し合う。また、外部から講師等を招聘する際は、その担当が中心となり、研修係と一緒に人選や諸準備をする。
- (5) 全体研修の場での司会は提起する担当が行い、記録や資料の保管は研修係が行う。

## 9 これまで実践した研修

### (1) 職員研修

#### ア 平成23年4月11日の研修

主題 「本年度の研修年間計画・生徒指導」

##### 《1》提起の内容

- 1 年間計画について
  - ・研究主題の確認
  - ・日程
  - ・確認事項
- 2 生徒指導について
  - ・生徒指導における共通理解事項の提示
  - ・各学年からの資料提示
  - ・補足説明

##### 《2》質疑応答

- ・校外研修会参加者の全職員へのフィードバックの必要性

##### 《3》今後への課題

- ・夏季休業中の研修の精選

#### イ 平成23年5月23日の研修

主題 「生徒理解」

##### 《1》提起の内容

- ・各学級担任より、学習面・生活面・身体面・健康面で気になる生徒の報告と共通理解事項の確認

##### 《2》質疑応答

- ・各教科の授業中の生徒の様子等について

##### 《3》今後への課題

- ・生徒個々への対応のしかたについても共通理解を図る

#### ウ 平成23年6月6日の研修

主題 「標準学力検査結果の分析」

##### 《1》提起の内容

- ・分析結果をもとに学年・教科より、課題と対策を発表

##### 《2》質疑応答

- ・「視写」課題の活用とその効果について
- ・正答率の低い問題についての共通理解

##### 《3》今後への課題

- ・教科を問わずできる取組として学習のしおりを活用しながら、学習習慣の確立を図る

#### エ 平成23年8月1日の研修

主題 「特別支援教育・特別な支援を要する生徒についての理解と対応」

講話 南さつま子育て支援センター こみなとさん家  
センター長 永田 篤子 先生

#### オ 平成23年8月2日の研修

主題 「ICT活用」

##### 《1》提起の内容

- ・校内グループウェアの活用と情報セキュリティの確保
- ・教材提示装置の機能と使い方

#### カ 平成23年8月31日

主題 「生徒理解」

講話 「不登校の早期発見と対応のしかた」  
鹿児島大学教育学部 橋口 知 先生

キ 平成23年9月12日

主題 「生徒理解」

《1》提起の内容

- ・各学年・学級からの学習面・生活面・身体面・健康面で気になる生徒の事例報告
- ・保健室より，保健室を訪れる生徒の実態の報告

《2》今後の課題

- ・生徒の実態について共通理解を深める
- ・指導や声かけの体制作り

ク 平成23年10月18日の研修

主題 「人権・同和教育」

《1》提起の内容

講話 「『差別』の先にあるひとの心と，立ち向かう生き方」

講師 鹿児島県部落解放同盟 青年部 綾田 直樹 氏